

Q10 地域と『協働』する際の学校の役割は何か

A： 教師と子どもの信頼関係を大切にして子どもたちの「生きる力」をはぐくむ。
自ら学び自ら考える力などの「確かな学力」を育てる。
・基礎的・基本的な「知識や技能」などを確実に身につけさせる。
・「学ぶ意欲」を引き出し、学習の仕方を身につけさせる。
・自ら考え、判断する力や表現する力を身につけさせる。
他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」を育てる。
・社会性や協調性を身につけさせるとともに、優しさや正義感などの豊かな心を身につけさせる。
たくましく生きるための（心身の）「健康や体力」を育てる。
学校がその目的を達成するため、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深める。

学校の役割 子どもの「生きる力」をはぐくむこと

学校の役割 家庭や地域社会との連携を深めること

学校の役割は、学習指導要領の理念である「生きる力」をはぐくむことである。

ただ、子どもの「生きる力」は、多様な人々と関わり、様々な体験を重ねていく中でよりはぐくまれるものであり、学校のみではぐくめるものではない。

また、近年の社会の変化に伴い、多様化・複雑化するニーズに学校の教職員や行政の力だけで対応していくことは困難となっており、学校がその目的を達成するためには、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深める必要がある。

家庭の役割

家庭（保護者）の役割として、明確に規定されていることは次の3点である。

【家庭の役割】 生活のために必要な習慣を身に付けさせる。

自立心を育成する。

心身の調和のとれた発達を図る。

教育基本法 第十条（家庭教育）

父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

地域社会の役割

地域社会の役割に関しての規定はない。

以前は、地域住民と子どもたちの関わり合いの中で自然な形で教育の機能が発揮され、地域社会の役割を担っていた。しかし、近年、地域における地縁的なつながりの希薄化などに伴って「地域の教育力の低下」が指摘されている。

そこで、改めて子どもの「生きる力」をはぐくむことについて、学校の役割と家庭・地域の役割分担を明確にし、教職員、保護者、地域住民の共通理解を図った上で、それぞれの責任を果たしていくことが重要である。

学校と家庭・地域社会の役割分担

まず学校のことを地域の人々に知ってもらい、関心を持ってもらうことがスタートとなる。その際、学校から地域の人々への積極的な情報公開が重要であるが、学校と地域住民の相互理解と信頼関係を構築する上からも丁寧で分かりやすい情報を発信する必要がある。

次に、学校と地域の人々が、子どもたちの実態について認識を共有した上で、地域でどのような子どもを育てるのが、何を実現していくのかという目標（「子ども像」）を共有することが大切である。

その後、目標を達成するために、学校、家庭、地域社会それぞれの具体的な役割分担をすることになる。目標を共有したり、役割分担をしたりするには、双方の納得のプロセスが不可欠であるため、一方からの押しつけとならないように留意したい。

参考：保護者の意識は・・・

「義務教育に関する意識調査」（2005年文部科学省委嘱：Benesse教育研究開発センター）によると、学校と家庭・地域の役割についての保護者の意識は次のとおりとなっている。

学校の役割として、子どもたちに身に付けさせたい事項

「教科の基礎的な学力」・「自ら学ぼうとする力」・「人間関係を築く力」

家庭や地域の役割として、子どもたちに身に付けさせたい事項

「善悪を判断する力」・「基本的生活習慣」

「社会生活に必要な常識」・「自分の健康を管理する力」

両者が共に身に付けさせたい事項

「ものごとをやりとげるねばり強さ」

「社会で役立とうとする心や公共心」

参考資料

- ・ [子どもの豊かな学びを創造し、地域の絆をつなぐ～地域とともにある学校づくりの推進方策～](#)
学校運営の改善の在り方等に関する調査研究協力者会議提言（平成23年7月5日）

